

熊谷市の環境から麦の生産量を考える

～麦の生さん量をふやす～ 『熊谷市社会科副読本』

校種・学年	小学校・第4学年	教科等	社会科
時間・学期(月)	12時間・後期(10月)	副読本	P3
準備等	写真資料等、家庭や地域との交流の場		

1 わらい

地域に今も残る歴史や、地域の発展につくした人々の働きに関心を持ち、今の環境の様子から農作物への被害を知る。また、自分たちの地域のことと比較することで環境問題を考えることができる。

2 伸ばしたい資質・能力

- 自ら課題を発見し、情報を収集・整理・分析しながら、調査・観察したことをまとめ伝える力
- 人や自然と積極的に関わり、探究活動を通して、自分の考えや見方を広げる力
- 身近な環境問題を自分のこととしてとらえ、活動を通して、生じた課題を解決する力

3 指導計画(全12時間)

時間	主な学習活動・内容等
3	○熊谷市の農作物への関心を高め、環境問題の視点も持たせながら学習問題をつくり、学習計画を立て、解決の見通しを持たせる。
3	○当時の人々の暮らしの様子から地域の人の思いと、先人(権田愛三)の思いを調べる。先人(権田愛三)の業績と事業の範囲を調べる。
4	○人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活を向上させた先人(権田愛三)の働きや苦心、地域に与えた影響を知りまとめる。調べたことを基に、小麦の生産について
2	○単元についてまとめ、他の農作物についても調べ特色について話し合う。

4 本時の学習指導(本時 1/12)

時間	学習活動	留意点 ★冊子の活用等
5	○資料と出会い、本時の学習の見通しをもつ。	★「埼玉県の農作物への被害」から、現在の環境への影響を知るきっかけとする。 ○現在の熊谷市の小麦の生産量を知るとともに、最近の小麦の生産量を調べようとするきっかけとする。 ○熊谷市の小麦の生産量から先人(権田愛三)の業績を調べようとするきっかけとする。
5	○身近な環境問題についての資料を読み取る。 ・自分を取り巻く環境の現状を知る。	
20	○資料を通して、熊谷市の農作物の育成に触れる。 ・個人やグループでの読み取り ・全体での共有	
10	○学級の疑問を共有させ、問題としてまとめる。 ・ペアでの話し合いをとおして、疑問を共有する。	
5	○本時の学習をふり返り、次時への見通しをもつ。 ・学習問題	

5 他教科等とのつながり

- 算数3年生 棒グラフの読み方
- 理科4年生 植物の成長
- 理科5年生 発芽と成長

6 社会とのつながり

- 家庭や地域の人たちへのインタビュー
- 学校周辺の田や畑の様子を計画的に調べる

7 おすすめのポイント（さらに、効果アップ！）

- 学習問題について調べる際に、家庭や地域の方にインタビューするとともに、地域の麦のことやこれからの環境問題について一緒に考える機会をもつと、学習がより深まる。
- 学習したことを基に自分たちにできることを選択・判断させるために、学習前の自分の考えを記録し、活用することで、学習を通して自分の考えがどうなったのかが実感できる。
- 自分の考えの変容が、具体的な行動にどう表れるかについて、学習後も追跡調査できるようにする。（授業の中で触れること・朝の会や帰りの会で話題に出すこと。）

8 授業後の児童の感想、参観された方の感想など

- 温暖化の影響が小麦の生産にも影響あると知り、熊谷市の生産量を調べてみたいと思った。
- 環境への影響は、自分の生活のどのようなところから出ているのか疑問に思った。
- 権田愛三さんは、どんなことをして熊谷市の小麦の生産量を増やしたのか知りたくなった。
- 小麦だけでなく、他の農作物にも影響があるのかどうか調べてみたくなった。

9 研究協議の内容

- 『学習問題』のつくり方にやや難しさを感じた。児童の意見を取り入れた方法があるとよい。
- 温暖化問題と麦の生産量の内容の結びつきが、自然な形で行われるとよいと感じた。
- 子供たちの意識を、地域の小麦生産や環境問題へ向けることができた。